

社会資本総合整備計画（活力創出基盤整備）

平成 26年 3月 19日

計画の名称	3 もりおか交通戦略の推進		
計画の期間	平成22年度 ～ 平成26年度（5年間）	交付対象	盛岡市
計画の目標			

- I 歩いて楽しむ中心市街地の形成
 中心市街地における回遊性及びアクセス性の向上を図り、歩行者や自転車が安心して快適に移動することができる賑わいのある空間を創出する。
- II 公共交通軸の充実・強化
 各地域と中心市街地を結ぶ公共交通軸を充実・強化し、自家用車から公共交通への転換を促進する。

計画の成果目標（定量的指標）			
<ul style="list-style-type: none"> 中心市街地を快適に移動できると感じる人の割合を現状から約4%増加させる。 中心市街地への通勤における自家用車の利用割合を約4%削減させる。 			

定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値			備考					
	当初現況値 (H22当初)	中間目標値 (H24末)	最終目標値 (H26末)						
中心市街地において歩行者、自転車利用者の意識を調査する（アンケート調査）	46.7%	49%	51%	もりおか交通戦略における、目標値（H30）を基に設定					
事業所従業者への実態調査を実施し推計値を求める（アンケート調査又は全国PT調査への追加調査）	38.9%	37%	35%						
全体事業費	合計 (A+B+C)	5,773 百万円	A	5,448 百万円	B	C	325 百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)	5.6%

交付対象事業																	
A 基幹事業（街路事業）																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	事業及び施設種別	省略工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考
											H22	H23	H24	H25	H26		
3-A-1	街路	一般	盛岡市	直接		S街路	改築	梨木町上米内線（II）	現道拡幅L=0.68km	盛岡市						2,114	H30
3-A-2	街路	一般	盛岡市	直接		S街路	改築	盛岡駅南大通線（大沢川原）	現道拡幅L=0.22km	盛岡市						2,023	H28
3-A-3	街路	一般	盛岡市	直接		S街路	改築	南大通南大橋線（神子田I）	現道拡幅L=0.30km	盛岡市						88	
3-A-4	街路	一般	盛岡市	直接		S街路	改築	明治橋大沢川原線（大通）	現道拡幅L=0.16km	盛岡市						1,196	H29
3-A-5	施設整備	一般	盛岡市	直接		S街路	改築	自転車走行空間整備	L=2.4km	盛岡市						27	
											小計			5,448			
B 関連社会資本整備事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	省略工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考	
										H22	H23	H24	H25	H26			
											合計			0			
番号	一体的に実施することにより期待される効果												備考				

C 効果促進事業																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	省略 工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	備考
										H22	H23	H24	H25	H26		
3-C-1	計画・調査	一般	盛岡市	直接	—	計画調査	新駅整備関連交通広場等計画調査	新駅、交通広場関連の調査設計	盛岡市						40	H28
3-C-4	社会実験	一般	盛岡市	直接	—	社会実験	バス運行社会実験（JR岩手飯岡駅東地区）	ゾーンバスの運行	盛岡市						12	H27
3-C-6	社会実験	一般	盛岡市	直接	—	社会実験	バス運行社会実験（松園支線バス）	ゾーンバスの改良	盛岡市						10	
3-C-7	社会実験	一般	盛岡市	直接	—	社会実験	バス運行社会実験（IGR厨川駅西地区）	ゾーンバスの運行	盛岡市						12	H28
3-C-8	施設整備	一般	盛岡市	直接	—	公共交通（バス等）	バス停整備（ハイグレード）	バス停の整備6箇所	盛岡市						18	H28
3-C-9	施設整備	一般	盛岡市	間接	民間	情報提供施設	バス運行情報提供施設整備・更新事業	情報提供施設10基	盛岡市						50	H27
3-C-11	社会実験	一般	盛岡市	直接	—	社会実験	交差点改善社会実験（JR盛岡駅前）	交通円滑化の実験	盛岡市						4	
3-C-12	社会実験	一般	盛岡市	直接	—	社会実験	交差点改善社会実験（菜園地区）	自歩優先エリアの実験	盛岡市						30	H28
3-C-13	施設整備	一般	盛岡市	直接	—	都市交通	自転車駐車場の整備	5箇所	盛岡市						65	H28
3-C-14	社会実験	一般	盛岡市	直接	—	MM	モビリティ・マネジメント	公共交通軸沿線の市民対象	盛岡市						30	H27
3-C-15	計画・調査	一般	盛岡市	直接	—	計画調査	交通戦略の効果の検証	アンケート調査、PT調査	盛岡市						4	
3-C-16	社会実験	一般	盛岡市	直接	—	社会実験	JR山田線利用促進社会実験	コミュニケーションアンケート調査、集計	盛岡市						50	H27
合計													325			

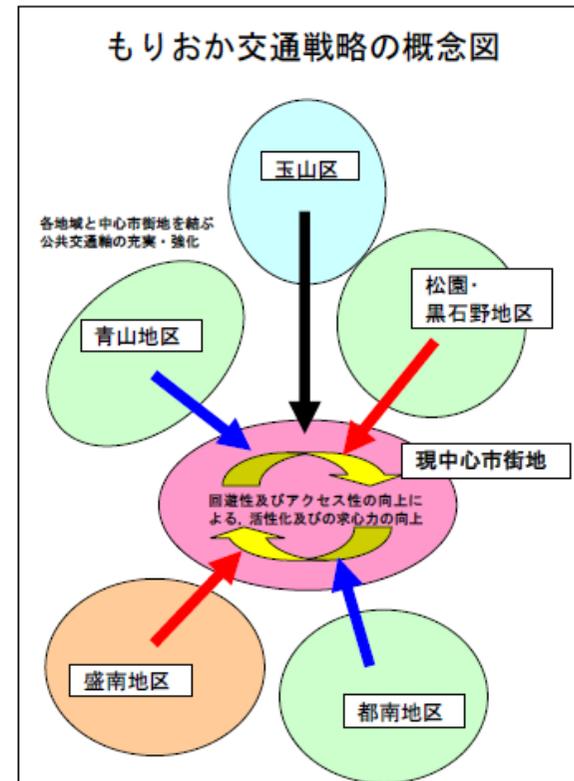
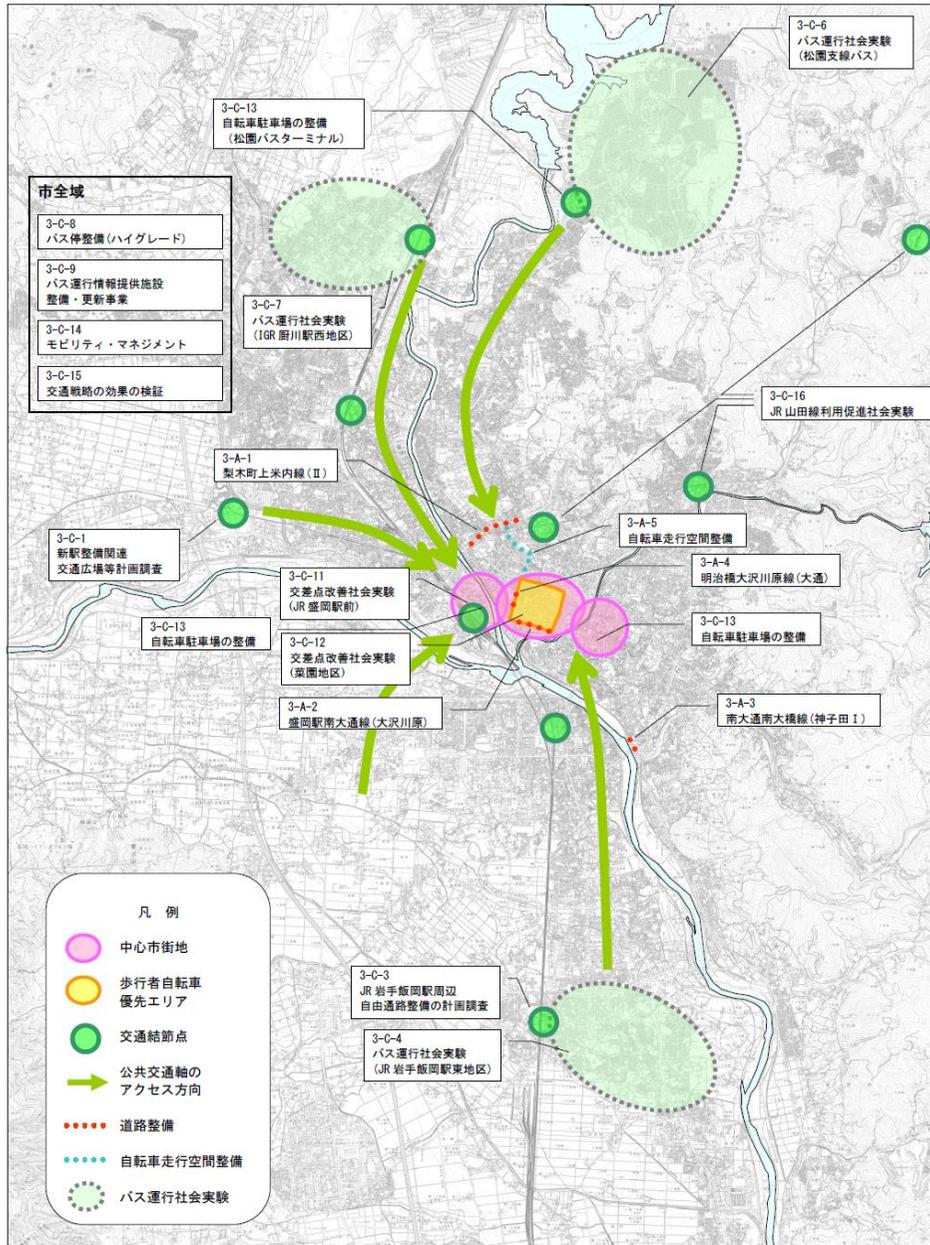
番号	一体的に実施することにより期待される効果	備考
3-C-1	各地域と中心市街地を結ぶ公共交通軸を充実・強化し、自家用車から公共交通への転換を促進する。	
3-C-4	今後実施する岩手飯岡駅自由通路整備の前にバス運行に関する社会実験を実施し、自家用車から公共交通への転換を整備前後で検証する。	
3-C-6	街路事業（3-A-1）と一体的に、効率的、効果的なバス運行に関する社会実験を実施し、自家用車から公共交通への転換を検証する。	
3-C-7	道路事業の駅周辺整備に合わせ、効率的、効果的なバス運行に関する社会実験を実施し、自家用車から公共交通への転換を検証する。	
3-C-8	街路事業（3-A-1～4）と一体的に整備し、自家用車から公共交通への転換を促進する。	
3-C-9	街路事業（3-A-1～4）と一体的にバスの運行情報を提供する施設を設置若しくは更新し、利用者の利便性の向上を図る。	
3-C-11	街路事業（3-A-2）と一体的に、中心市街地の回遊性向上に資する盛岡駅前の交通処理を検討するため、盛岡駅周辺の交通実態の調査及び改善計画の策定を行い、その効果を検証する。	
3-C-12	街路事業（3-A-2）と一体的に、菜園地区の交差点改良に係る社会実験を実施し、中心市街地における歩行者自転車の移動快適性向上に資するかを検証する。	
3-C-13	街路事業（3-A-2,4）や公共交通軸の利便性の強化と一体的に、自転車駐車環境の改善し、自転車による回遊性の向上を図る。	
3-C-14	街路事業（3-A-1～4）と一体的に地球環境や公共交通利用者に望ましい交通行動に向けて、自発的な行動の変容を促す啓発活動を実施。	
3-C-15	街路事業（3-A-1～4）における計画の効果的な・効率的な展開を図るため、中間時及び目標時における評価を行うために調査を実施する。（全国PT調査とのアドオン調査の可能性も踏まえる）	
3-C-16	街路事業（3-A-1）と一体的に、効率的、効果的な鉄道運行に関する社会実験を実施し、自家用車から公共交通への転換を検証する。	

その他関連する事業										
計画等の名称										
事業種別		交付 対象		要素となる事業名 （事業箇所）		市町村名			全体事業費 （百万円）	備考
									・・・	
									・・・	
									・・・	

A'	B'	C'	$(C+C') / ((A+A') + (B+B') + (C+C'))$
----	----	----	---------------------------------------

(参考図面) 活力創出基盤整備

計画の名称	3 もりおか交通戦略の推進	交付対象	盛岡市
計画の期間	平成22年度 ～ 平成26年度 (5年間)		



社会資本整備総合交付金チェックシート
(活力創出基盤整備タイプ)

計画の名称: 3 もりおか交通戦略の推進

市町村名: 盛岡市

チェック欄

I. 目標の妥当性	
①基本方針・上位計画等との適合	
1) 計画の目標が市町村の総合計画[盛岡市総合計画]と適合している。	○
2) 計画の目標が「盛岡市都市計画マスタープラン」と適合している。	○
3) 計画の目標が「盛岡市総合交通計画」と適合している。	○
4) 計画の目標が「もりおか交通戦略」と適合している。	○
II. 計画の効果・効率性	
②目標と事業内容の整合性	
1) 目標と指標・数値目標の整合性がある	○
2) 指標・数値目標と事業内容の整合性がある	○
3) 指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものになっている	○
③事業の効果	
1) 目標に対して十分な効果を得られる事業で構成されている	○
2) ハードとソフトの連携が図られている	○
III. 計画の実現可能性	
④計画の具体性	
1) ハード整備の必要性が整理されている	○
2) ソフト施策の目的が明確である	○
⑤円滑な事業執行の環境	
1) 計画の内容に関し、地元に対する事前説明が行われている	○